

三岸節子〈短歌ポスト〉 入選作品 (令和元年後期分)

選者 小塩卓哉 (中部日本歌人会顧問)

【優秀作】

細い運河

ヴェネツィアの細き空より差しこみて壁を染めゆく光となれり

愛知県犬山市 有本 仁政

〈評〉建物と建物の間の細い隙間から差し込む光があるからこそ、この絵の構図は成立する。そのような場を探し絵画の構図とした節子のモチーフを、鑑賞者として確認し短歌としているのである。空から差し込む「光」を短歌作品の主体にしたところが見事である。

さいたさいたさくらがさいた

九十年変わらぬものはあらねども今年も吾魅了する満開の花

愛知県北名古屋市 浜田 寛子

〈評〉九十年の人生を絵画に捧げた節子の最晩年の作品を詠っている。上句は、九十年を生きれば、余人には想像の及ばない紆余曲折があっただろうとの想像である。その一方で下句では、最晩年の作品はいつ見ても変わることもなく自分を感動させるのだという。絵画と対面することで、芸術による人生の普遍化を確信している作者である。

浜村美智子氏肖像画

カリプソの歌声いまに聞こえそにキャンバスいでてよみがえりくる

愛知県稲沢市 大熊 信吾

〈評〉浜村美智子は、ハリー・ベラフォンテの楽曲「バナナ・ボート」をカバーし、「カリプソの娘」と呼ばれた。その頃「週刊朝日」の企画で節子の手による肖像画が掲載された。本美術館二十周年の企画で浜村はその絵画に六十年ぶりに再会を果たしている。カリプソの歌声が聞こえるような再会の雰囲気を感じさせる作品。

【佳作】

小運河の家(1)

おちついたせんとしきさいとおくからながめてさらにくつきりうかぶ

愛知県稲沢市 服部 富子

雲と海の対話(夕焼)

様々のくれないきらめき語り合い すべてを受けとめ海はほほえむ

愛知県名古屋市長 石黒 典子

群がる馬

雄々と馬たちの群れたおやかに我を誘ふ画布の彼方へ

愛知県稲沢市長 安田 一子

さいたさいたさくらがさいた

キャンパスの前が私の生きる場所三岸の戦う命のありか

東京都小平市長 三田 隆一

さいたさいたさくらがさいた

目の前に万葉のさくら静まりて生きとし生くるものみな包む

東京都渋谷区 合谷 美智子

自画像

美術館尋ねて来たり老夫婦節子自画像昭和の匂ひ

岐阜県羽島市長 勝 康治

ブルゴーニュにて

もりのなか、はばたくとりよみてるかい、きいろのはなをほらきれいだよ

一宮市立末広小学校 辻川 雄貴